

寄稿 危機管理・運営局 企画調整部 上級研究員 佐藤 瞳



12月

厚生労働省委託事業として、感染症危機管理の領域で

リーダーシップを発揮できる人材を育成するための研修を実施しています

今回は、令和7年4月に開講した長期研修について、12月に実施したプログラムの様子をご紹介します。

実践研修

感染症危機管理に関わる各関連機関の役割や業務を知り、感染症危機時における分野横断的な調整能力を身につけることを目的として実施



厚生労働省での実践研修（OJT）

令和7年11月中旬より、厚生労働省における実践研修（OJT）を開始しました。期間は令和8年3月までの約4カ月間となります。今回の研修は、国の行政実務を直接体験することで、より高度な専門性と広い視野を養うことを目的としています。研修生は、感染症対策の要所である「感染症対策部（感染症対策課、企画・検疫課、予防接種課）」をはじめ、「健康課」や「地域医療計画課」といった、現在の公衆衛生・医療行政において極めて重要な役割を担う部署に分かれ、日々研鑽を積んでいます。



上：厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課 担当者と研修生
下：横浜検疫所輸入食品・検疫検査センターにおける意見交換の様子

外部研修

他の機関が提供している感染症危機管理に関する研修や学習ツール、会議やイベント等への参加

DMAT 事務局主催「災害法制度レクチャー」

修了後のフォローアップ及び現役生の専門性向上を目的として、外部機関との連携研修を推進しています。その一環として、12月26日にDMAT事務局主催「災害法制度レクチャー」をオンラインで受講しました。令和6年度短期研修修了生と令和7年度短期研修生の計10名が参加し、災害医療における法制度や実務運用の最新動向を学習しました。参加者からは、実務に即した内容に高い関心が寄せられ、組織の垣根を越えた危機管理意識の共有が図られました。こうした専門機関との密な連携は、当プログラムの大きな柱です。今後も現場での対応力を高める学びの場を提供し、危機管理能力のさらなる向上を支援してまいります。

講師：菅野 拓 先生
(大阪公立大学大学院 文学研究科 人間行動学専攻)
テーマ：「災害救助法・災害対策基本法改正に伴う災害対応の変化について」

詳細は
Web サイトへ ▶



寄稿 危機管理・運営局 企画調整部 上級研究員 佐藤 瞳

令和7年11月～令和8年1月にかけて、「令和7年度感染症危機管理リーダーシップ研修（短期）」を開催しました。本研修には、医師・保健師・薬剤師・獣医師・歯科医師・事務職など、多様な職種を含む31名の研修生が全国から参加しました。

研修目的

感染症危機管理の関連機関の業務や役割・機能を理解し、感染症危機時のリーダーシップの基礎に関して知見を深めます。

研修方法

3カ月間のうち、毎月連続した2～3日間、計7～10日間程度、eラーニング、対面研修、実地研修、机上演習、外部講義などを受講します。



1月16日の意見交換会の様子
(JIHS 研修棟5階大会議室)

プログラム	概要
eラーニング	地域の感染症危機においてリーダーシップを発揮する人材に必要な知識を学び、コンピテンシーの基礎を築く。
対面研修	eラーニングで学習した内容を実践することで、知識の深い理解・定着を促す。
実地研修	感染症危機において関連機関が果たす役割を理解する。
机上演習	感染症危機時の判断や意思決定のプロセスを実践的に学ぶ。
外部講義	感染症危機時の対応事例やリーダーシップの在り方を学ぶ。
意見交換会	研修で得た学びを振り返り、他の研修生との意見交換を通じて理解を深める。



11月

▶ 実地研修

感染症危機管理に関わる各関連機関の役割や業務を知り、感染症危機時における分野横断的な調整能力を身につけることを目的として実施



実地研修

11月19～21日の3日間にわたり、JIHS 臨床研究センター及び国立国際医療センターの実地研修のほか、対面研修、机上演習、外部講義を実施しました。

厚生労働省委託事業として、感染症危機管理の領域で

リーダーシップを発揮できる人材を育成するための研修を実施しています

JIHS では、厚生労働省委託事業として、公衆衛生行政、医療提供体制、感染症疫学や臨床等に関する専門的な知見や経験を有する既存の多様な職種の感染症専門人材に対し、地域における将来の感染症危機への対応においてリーダーシップを発揮する人材として、感染症危機管理に必要な多様かつ分野横断的な知識やスキルの修得や維持・向上を図ることを目的とした研修を実施しています。今回は、令和7年11月から開始された3カ月間の短期研修の様子を紹介します。

Web サイトは
こちら



（左から）森野 英里子 先生、森岡 慎一郎 先生、松永 展明 先生

講義内容

- 「自治体に知ってほしい感染症危機時の臨床研究の基礎」
臨床研究センター 森野 英里子 先生
- 「自治体に知っておいていただきたい感染症危機管理」
国際感染症センター 森岡 慎一郎 先生
- 「自治体に知ってほしい AMR 対策について」
AMR 臨床リファレンスセンター 松永 展明 先生



12月

外部講義

外部講師による感染症危機の事例やリーダーシップに関する講義とグループディスカッションを実施



那覇検疫所長
井手 一彦 先生

外部講義「検疫」

12月18～19日の2日間にわたり、外部講義をはじめ、机上演習、東京検疫所 羽田空港検疫所支所見学、横浜検疫所見学を実施しました。外部講義「検疫」では、那覇検疫所長 井手一彦先生より、検疫所を取り巻く環境と基本業務や、有症者発生時の対応のプロトコルについて説明いただいたほか、普段のPPE着脱練習や有症者の移送訓練の様子を紹介いただきました。また、COVID-19パンデミック時に実際に行った武漢便や羽田空港での対応について解説いただきました。

研修生の声

検疫所の機能や実際の動きを学ぶ機会が今までなかったので、すべての内容が非常に有益だと感じました。



1月

机上演習

対面研修の学習を踏まえ、感染症危機時に実際にどのように実務に活かされるか学ぶことを目的として実施



神奈川県
健康医療局
医務担当部長
山崎 元靖 先生

机上演習

1月15～16日の2日間にわたり、机上演習をはじめ、実地研修、外部講義、意見交換会を実施しました。机上演習では、国からの緊急事態宣言を受けた際に「まん延の防止に関する措置」に基づいて自治体職員として考慮すべき事項の洗い出しを行いました。2班1組で措置に対する肯定派・否定派に分かれ、質疑応答のロールプレイを行いました。

外部講義「行政」

外部講義「行政」では、鳥取県の平井伸治知事より、県の保健衛生業務の現状とコロナ禍における対応について解説いただきました。独自の「鳥取方式」による検査体制や陽性者への迅速な対応の振り返りとともに、今後の感染症危機への備えとして自治体間・国との連携の必要性について学びました。



鳥取県知事
平井 伸治 先生

